

普及指導員調査研究報告書

課題名：地域に適した加工用向けキャベツの品種選定について

長門農林事務所農業部 担当者氏名：古橋典子、小林剛、中村誠司

<活動事例の要旨>

管内で、加工業務用キャベツの取り組みが始まり、3法人が作付を行うことになった。地域では取り組みが初めてであったことから、契約した時期（2月）に定量を出荷できる加工向け品種の選定のため、品種試験を実施した。

今年度試験結果から、夢ごろもが有望と考えられた。

1 普及活動の課題・目標

J A長門大津は、加工業務用キャベツの取り組みを進めることとし、冬季の労力活用を考えていた3法人が取り組むこととなった。

加工業務用キャベツは、契約した時期に定量を出荷する必要があり、また、経営的には単収を確保する必要がある。

この度は、J A長門大津が2月出荷の契約を行っていることから、長門市で2月出荷が可能な前述取り組みに適する品種の選定を行う。

2 普及活動の内容

(1) 農林総合技術センターや他産地の情報収集を行い、2品種の試験を実施することとした。

(2) 品種比較試験圃を設置し生育状況及び収量、収穫物の品質について把握した。

①実施場所：長門市三隅地区（（農）中小野の郷）

②試験区

試験品種：冬藍（サカタ）、夢ごろも（タキイ）

対象品種：冬のぼり（野崎採種場）

③耕種概要

播種：平成28年8月11日

定植：平成28年9月14～15日（※当初計画 9月上旬）

肥料：栽培暦どおり

栽植密度：4,040株/10a（畝幅150cm、株間33cm）

③調査項目

生育状況（苗質、定植1カ月、結球期の生育状況、収穫時の葉数）

収量調査（全重、球重、球形（高さ、横径、軸の長さ））

収穫期間

3 普及活動の成果

(1) 試験結果より、各品種の地域での生育状況が把握でき、有望品種について見通しがたった。

<試験結果>

①生育について

- ・苗質は、品質の差がなく良質な苗ができた（データ略）。
- ・今年度は冷夏長雨で、圃場づくりが遅れ、当初計画の9月上旬に定植できなかった。また、圃場条件が悪く各品種とも初期生育が悪かった。加えて、10月に20日程度連続して降水が無かったため、圃場が乾燥し追肥も溶けなかったことから、結球期の葉数は少なく、最大葉は葉長・葉幅ともに小さかった。特に「冬のぼり」「冬藍」は小さかった。

表1 品種毎の生育状況について

品種	定植後1カ月			結球期		
	生葉数 (枚)	最大葉長 (cm)	最大葉幅 (cm)	生葉数 (枚)	最大葉長 (cm)	最大葉幅 (cm)
冬のぼり	10.8	29.0	22.1	9.7	35.2	27.5
夢ごろも	11.8	27.3	20.4	13.1	40.8	31.4
冬藍	11.5	29.6	22.6	10.8	35.5	29.4

※ 調査株数:10株×2反復

※ 調査日:10/15、11/20

②収穫期間について

- ・冬藍は、出荷開始時の2月上旬には85%で裂球していた。冬藍は生育が早く、1月中旬頃が収穫適期であったと思われ、また、適期後から裂球までの期間が短かった。
- ・夢ごろもは、冬のぼりより若干早く収穫適期を迎え、3月上旬でほぼ収穫が終了できた。

表1 品種ごとの収穫期間について

品種	収穫終了株率(%)						出荷開始時期の裂球率(%)	収穫開始適期
	2/上	2/中	2/下	3/上	3/中	3/下		
冬のぼり	0	30	35	75	75	100	0	2月中旬
夢ごろも	0	60	60	80	80	100	0	2月中旬
冬藍	100	100	100	100	100	100	85	1月中旬

注1) 調査株数:10株×2反復

注2) 調査日:2/10、2/12、2/13、3/14、3/23

注3) 収穫開始適期:達観による

③収量および品質について

- ・ 1球重は、各品種とも1.1～1.2kg程度で、差は見られなかった。なお、冬のぼりは収穫期には下葉が黄化し外葉数が少なくなっていた。
- ・ 球径は、夢ごろもは冬のぼりや冬藍と比べて球高が低く、扁平な形であった。また軸長が他2品種と比べ短かった。

表2 品種ごとの収穫時期の状況について

品種	1球重 (g)	球形			全重 (g)	外葉数 (枚)	最大葉長 (cm)	最大葉幅 (cm)
		球径(cm)	球高(cm)	軸長(cm)				
冬のぼり	1,188	19.0	12.7	7.2	1642	9.7	36.2	30.1
夢ごろも	1,111	18.2	10.9	6.0	1890	15.1	40.5	33.3
冬藍	1,296	17.4	12.1	6.6	2029	14.4	36.8	32.4

注1:調査株数:10株×2反復

注2:収穫調査は、随時収穫期を迎えた株を収穫して実施(調査日は表1と同じ)



<夢ごろも>



<冬のぼり>

④考察

- ・ 以上の結果から、「夢ごろも」は、2月中旬から収穫が可能になったことや需要先から軸長を5cm程度で望まれていることから、長門地域での加工用キャベツの品種として有望と考えられる。ただし、今年度は定植時期の遅れや10月の乾燥、11月～12月の気温が例年より高く推移した(データ略)ことから、再度確認が必要である。

4 今後の普及活動に向けて

- ・ 平成27年産キャベツ生育期間は、例年と比べ気温が高く推移したことから、平成28年産も引き続き生育確認をする必要がある。
- ・ 法人が作付面積を拡大するためには、収穫期間を長くする必要があり、他の作型についても定植時期や品種の検討を行う必要がある。